

鳩ヶ谷庁舎を有効活用し

新庁舎建設

規模
建設費
市民負担

の削減を

ふるさと鳩ヶ谷の会と戸塚公民館を考える会は10月22日、奥ノ木市長に「新庁舎建設基本構想・基本計画の策定にあたって」の要請を行いました。

本庁舎（現在）



建替え

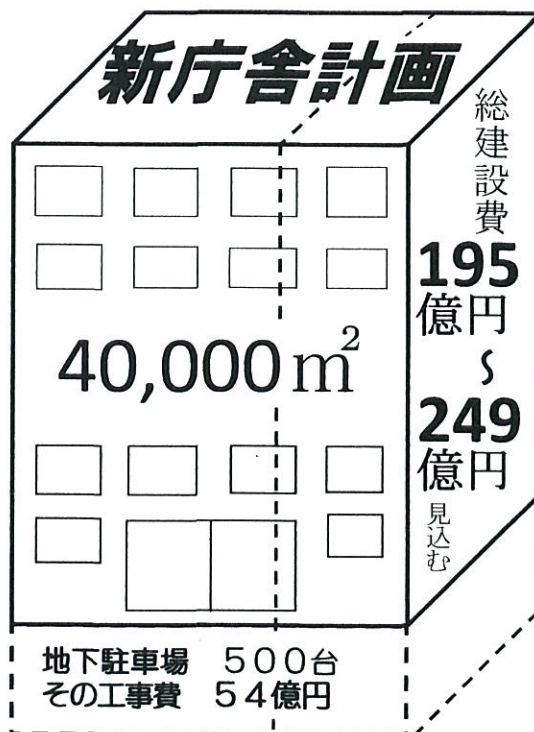
周辺分庁舎を含む延床面積
20,269㎡

鳩ヶ谷庁舎



139台が駐車できる鳩ヶ谷庁舎

延床面積
11,385㎡



削減

鳩ヶ谷庁舎の有効活用で
建設費の削減は可能では！

☆ ふるさと鳩ヶ谷の会が、市長に要請した詳細については、当会のホームページをご覧ください。

鳩
ヶ
谷
の
会

ニュース

第14号

（「準備会」から通巻21号）

2014.10.31

発行
ふるさと
鳩ヶ谷の会
会長 山中 照行
川口市坂下町
2-5-6
☎・FAX
285-0776
ホームページ
[http://
www.hatogaya
saloon.jp/](http://www.hatogaya-saloon.jp/)

＊第4回川口市新庁舎建設基本構想・基本計画審議会（10/6）資料をもとに作成しました。

要 請
その1

市民に説明を

川口市は、市民の膨大な税金を使って新庁舎建設を予定していますが、「市役所は市民のもの」と言いながら、その市民に説明もなく計画づくりをすすめています。川口市は、条例で『市民が主人公』を理念にし、市民の意見を行政運営に反映することを定めています。市は早急に、説明会を行う必要があるのではないのでしょうか。

要 請
その2

支所業務を拡充し、市北部・東部地域の 利便につながる鳩ヶ谷総合支所に

川口市が実施した『庁舎に係る市民アンケート』からも、多くの市民が、各支所の窓口業務の拡充を願っています（裏面を参照）。

身近な支所こそ窓口を充実して、鳩ヶ谷庁舎を総合支所として有効活用することで、新庁舎の建設規模の縮小と建設費の削減が図られ、川口市北部・東部地域住民の利便性向上につながるのではないのでしょうか。



鳩ヶ谷
“お宝探し”
第2弾

里山と湧き水の 自然を訪ねる

☆日時 11月15日（土）9:00 どなたも参加できます

☆会場 ふれあいプラザさくら（講演後現地へ、浦寺～湧き水公園）資料・会場費300円

☆講師・話す内容 藤波 不二雄さん（財）日本鳥類保護連盟専門員 桜町在住

・起伏ある鳩ヶ谷、湧き水と湧水池がつくる地を探る ・鳩ヶ谷の自然の移り変わり

広大な
川口市で

市民は、支所の窓口業務の 拡充を願っています

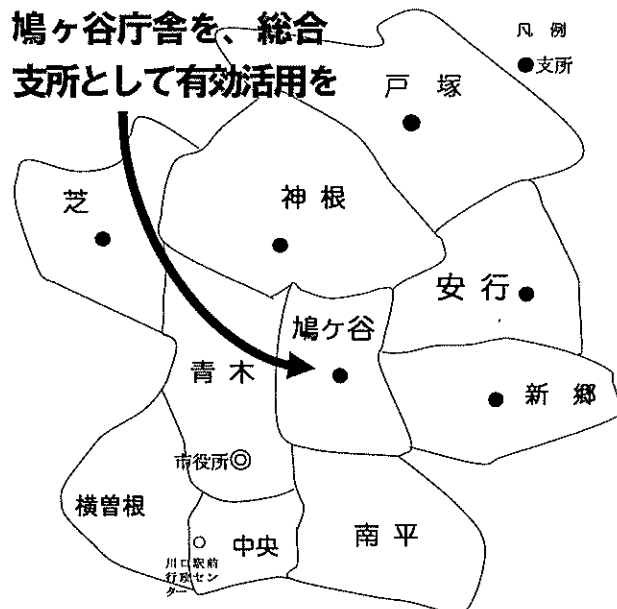
利用する機会の多い場所（行政窓口）として、新郷、神根、安行、戸塚の各地域の市民は、「支所を利用する」が70～80%、「市役所を利用する」は約10%台となっています。（市実施の市民アンケートから）市役所から遠い北部・東部地域は、身近かにある

支所で必要と思う業務（市民アンケート結果）

意見の区分	件数	意見内容・必要と思われる業務内容	件数
支所で取り扱ってほしい業務	109	パスポートの申請・交付	41
		子育て・教育関連業務（施設等の申請、相談等）	24
		介護に関わる業務（介護保険申請、相談等）	19
		相談窓口の充実（相談可能な部課所の設置等）	17
		原付バイクなどの登録、ナンバー交付	8
業務の一部を支所で取り扱っているが、（さらに）やってほしい必要な業務	68	福祉に関わる業務（申請、相談等）	22
		税金関係業務（納付、確定申告、相談等）	20
		健康保険関係業務（届出、高額療養費申請、相談等）	10
		高齢者関連業務（ことぶき証などの申請、相談等）	7
		障がい者に関わる業務（手帳申請、手続き、相談等）	6
支所機能は現状で良い	54	年金関連業務（納付、相談等）	3
本庁と同様の機能	34	現状維持で良い（十分である、問題ないなど）	54
		本庁と同様の機能（全ての手続き・申請が可能）	34

*市実施の「庁舎に係る市民アンケート結果（問11 自由記載）」をまとめたもの。意見総数は356件で、支所で既に取り扱っている業務、設備充実等の意見の記載は除きました。

鳩ヶ谷庁舎を、総合 支所として有効活用を



支所を、多くの市民が利用していることが改めてハッキリしました。いまこそ、市民が願う支所の窓口業務の拡充をすすめるべきです。

川口市のほぼ中央に位置する鳩ヶ谷庁舎を、総合支所として有効活用すべきではないでしょうか。

SSS 審議会傍聴記 SSS

鳩ヶ谷庁舎でワンストップサービスを実現し 市庁舎建設コストの削減を！

ふるさと鳩ヶ谷の会 副会長 森 克彦

第5回川口市新庁舎建設基本構想・基本計画審議会を10月28日、傍聴しました。

冒頭、尾島会長が「基本構想は重要である。後戻りしないようしっかりと議論したい。そのために今回だけでなく次回も基本構想を審議する。」と市当局の審議日程を修正しました。市の方針をただ追認するだけの審議会に不快感を表明した当然の処置であり、審議会長の決断に心の中で拍手しました。

市から示された基本構想（素案）には重大な問題点が四つあります。

(1) 市で実施した5千人のアンケートの結果が反映されていないこと。

アンケート結果から市は支所業務について「現状で良いが多数」であったとの誤った評価をしたままです。実際はその四倍もの市民が子育て・教育、福祉、税金、介護など、拡充して欲しい業務を具体的に記入している事実を重くは受け止め基本構想に反映させるべきです。

(2) 必要床面積4万㎡の根拠が曖昧なこと。

4万㎡の根拠として古い総務省の基準を掲げていますが、「部長・次長執務スペースだけで2、500㎡（75坪）も必要なのか」「部長・次長の現状スペースを聞きたい」「各部、各課で会議室を共用できないのか」「ITの活用でスペースを削減できるのでは」などの委員からの疑問や意見は当然です。これまで2万㎡だった庁舎を2倍もの広い庁舎にする必要が本にあるのか。市民に過大な負担をかけることのないよう市民の理解が得られる床面積にすべきです。

(3) 事業費が予算200億円を大幅に超過すること。

市は今回はじめて総事業費の上限を200億円、うち建設費は160～165億円と発表しました。委員からはオリンピックや東北復興による建設単価の高騰が現実な状況で、この程度の予算ではとても4万㎡の庁舎と500台収容の駐車場を建設するのは不可能、との意見が出され、会長からも優先順位を考慮するなど思い切った提案が必要かも知れないとの発言があった。鳩ヶ谷庁舎など既存庁舎を活用し新庁舎の建設規模を見直すべきです。

(4) 従来型の一極集中機能維持に固執し、災害リスク軽減の視点が欠如していること。

新庁舎は市の南部に建設さ

れます。しかし、58万市民は広大な10地域に分散し、生活しています。30年以内に確率70%で発生する東京湾北部地震では震度6強の烈震、さらに洪水では最大5mの浸水被害が想定されています。

このような厳しい新庁舎の立地条件から、一極集中は採るべきではありません。災害時の基本は地域コミュニティです。各支所や公民館に地域の実情に詳しい職員を配置し、日常的に市民と触れ合えるような環境づくりを目指すべきです。

ふるさと鳩ヶ谷の会では、鳩ヶ谷庁舎をワンストップサービス可能な総合支所として活用するよう提案しています。これによって、川口市北部・東部地域市民の利便性が向上するだけでなく、本庁舎の必要面積が減少し建設費の削減が可能となるなど、一石二鳥です。是非とも基本構想に取り入れるよう真剣な審議を要望します。

